

○  
 會見に應じない爲、愈々持久戦を覺悟して社會大衆黨八幡支部へ應援闘士の派遣を求め、更に二十一日には伊藤卯四郎、八谷幸太郎、久保時造、宮崎太郎の諸幹部相集り、對策を練つた結果、社會大衆黨縣聯繫急執行委員會を開催し争議費用の調達問題を附議すること、會社の鑛夫待遇に關し鑛山監督局、並に縣當局に陳情すること等を決定し、越へて二十五日午前十時同幹部等は右兩當局を訪問し争議取締の緩和、鑛夫待遇問題等に關し陳情するところがあつた。尙争議團本部に於ては、(麻生商店罪惡史)を編纂し(別紙寫の通)之を二十三日總同盟本部其他の友誼團體に送付し、且つ亦在京中の龜井代議士より二十二日午前八時官崎太郎氏宛。  
 麻生問題は社會局でも協調會でも憤慨、議會にて質

問す、數字的材料飛行便で議會に送れ。との電報が來たので同會社の勞働事情並に警察當局の取締狀況等を議會の質問材料として、二十四日送付したのである。かくて一方では二十四日午前四時前後約七〇名の争議團員は吉隈、山内、赤塚の三坑三隊に分れてアデピラを撤布し遂に六八名(全員)檢束され其の際争議團員に二名の負傷者を出した。かくて益々氣勢を掲げ二十五日には参加數三六五名に達し尙漸増の狀勢にあるが一面、友誼團體の應援ありと雖も團員の増加に伴ひ幹部は争議費用の捻出に相當苦慮すると共に争議解決の曙光見えず焦心するところあり。  
 b 相愛會嘉穂支部の活動、  
 日幹部會を開催して協議會の結果、争議團に對し解決方警告を發することに決定し、同日午後一時支部長等